【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	北　海　道

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	鹿追町立鹿追小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	２	１	２	２	１	１	１０	１５
児童数	３９	４４	３８	４３	４２	３９	１	２４６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎的・基本的事項の定着を図り、自分の考えを確かにする個に応じた指導

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・１～６年生・国語
　他の教科等の基礎として確実に力を付けるあるため。
（５～６年は、１～４年と同様であるが、フロンティア加配ではなく少人数加配を利用して行う。）
・１～６年生・算数
　児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、積み重ねが必要であるため。

(2) 年次計画

平成15年度

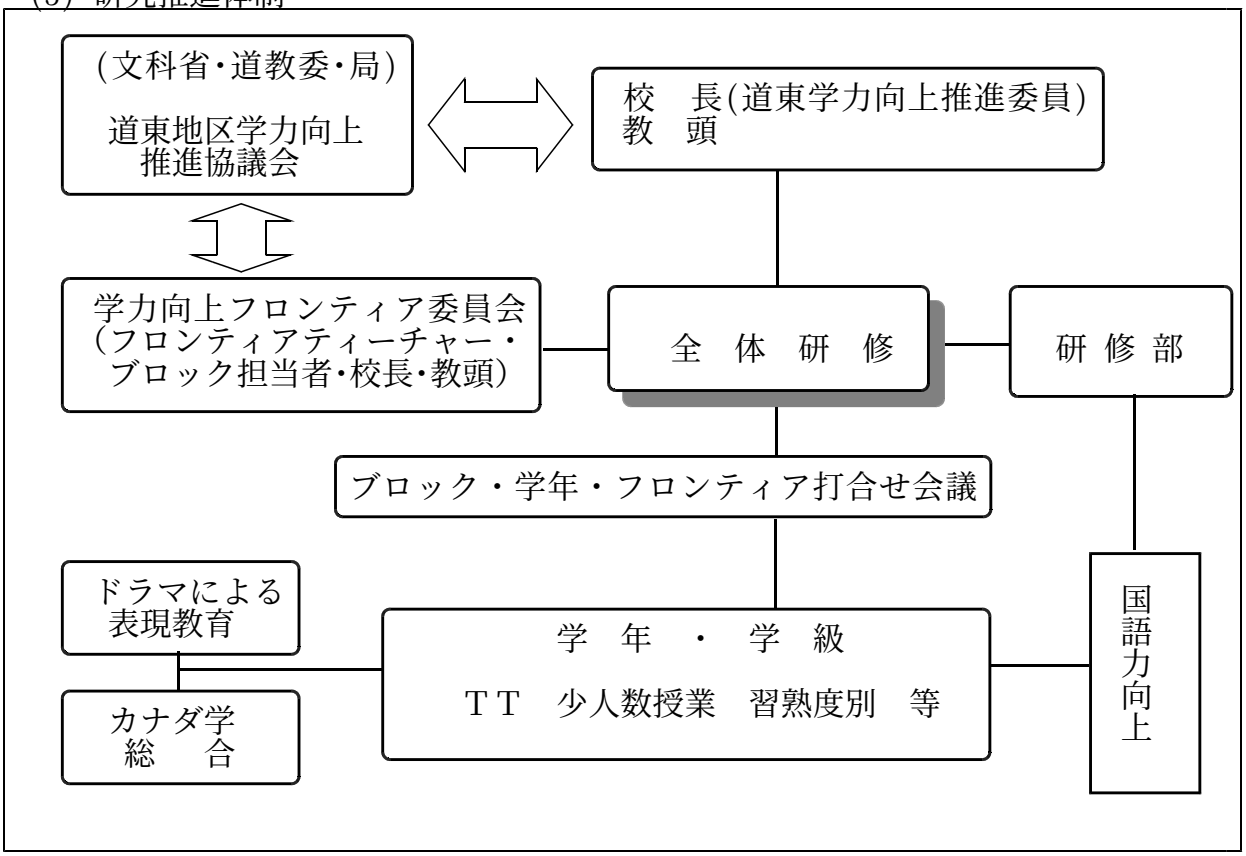
○　テーマ
◎基礎的・基本的事項の定着を図り自分の考えを確かにする個に応じた指導

○　研究の見通し（仮説）
（１）習熟の程度に応じたグループ編成や個別指導等のきめ細かな指導を行うことにより、児童の変容を確認しながら基礎学力の確実な定着を図り、一人一人の考えをより確かにすることができるだろう。
（２）児童一人一人の学習状況と目標達成のプロセスをより的確に捉えるため、評価の機能を生かすことにより、児童一人一人の理解の状況に応じた授業を組織的に展開することができるだろう。
（３）評価資料の蓄積・活用、それらに基づいた一人一人の興味・関心や理解の状況に応じて学習を展開することにより、児童の学習意欲を高めることができるだろう。

○　研究の内容・方法
（１）発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
・国語において、自分の課題や興味・関心に応じて学習コースを選択し、学習を進めることができる教材・教具の開発
・算数において、発展的な学習や補充的な学習を行うための視聴覚機器やインターネットを活用した教材・教具の開発
（２）個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
・国語において、理解の状況に応じた繰り返し指導の工夫改善
・算数において、少人数授業、習熟の程度に応じた指導、ＴＴ指導等のより効果的な実施
・評価の機能を生かした指導方法・形態・教材配列等の工夫
・ドラマ・ワークショップによる表現活動の活用
・全ての教科等の基盤となる国語力の向上を目指し、授業研究を進める。
・基礎的・基本的な内容の定着を図る朝の学習タイム、読書の時間の活用
（３）児童生徒の評価を生かした指導の改善
・自己評価や相互評価、ポートフォリオなど多面的、多角的な評価方法の工夫
・事前評価、形成的評価、総括評価による児童の変容の把握
・児童の興味・関心や意欲の評価と指導への反映

平成16年度	○　テーマ ◎基礎的・基本的事項の定着を図り自分の考えを確かにする個に応じた指導 ○　研究の見通し 平成１５年度に同じ ○　研究の内容・方法 （１）発展的な学習や補充的な学習のための教材の開発 ・国語と算数において、発展的な学習や補充的な学習を行うための定着プリント、ヒントカード、ｅ-ラーニングソフトの開発 ・朝の学習タイム、読書の時間の特設と活用、授業との関連 （２）個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善 ・国語と算数において、少人数授業、習熟の程度に応じた指導、ＴＴ指導など発展的な学習や補充的な学習を進める指導体制の工夫改善 ・形成的評価を生かした指導方法・形態・教材配列等の工夫 ・ドラマによる表現教育を取り入れ児童の感性を豊かにする。 ・全ての教科等の基盤となる国語力の向上を目指し、授業研究を進める。 （３）児童生徒の評価を生かした指導の改善 ・座席表などを活用し、子どものよさやつまずきを記録し、次時の指導に生かす評価の工夫改善 ・事前評価、形成的評価、総括的評価による児童の変容の把握 ・児童の興味・関心や意欲の評価と指導への反映

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）　発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

・国語と算数において、定着プリント、ヒントカード、ｅ-ラーニングソフトなどの教材を開発したことにより、発展的な学習や補充的な学習に容易に取り組め、個に応じた指導を展開できた。

（２）　個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善

・国語と算数において、ＴＴで指導することにより、低学年の児童数の多い学級では、落ち着きのない児童に重点的に指導することができた。

・フロンティア加配の教師と担任との打合せを設定することにより、児童の変容の理解や学習内容などの共通理解を図りながら指導することができた。

・個に応じたきめ細かな指導を行うことにより、少しずつ苦手意識が軽減され、学力の向上が見られるようになった。具体的には、習熟の程度に応じた指導を行った学年では、平均到達度が87%となった。（下位グループ８２%、上位グループ９２%）。

（３）　児童生徒の評価を生かした指導の改善

・国語と算数において、事前評価と総括評価の比較では、下位グループの向上率が大変大きかった。

・当該教科を「好き」という児童の割合が、67%から81%と向上し、「嫌い」という割合は、33%から19%へ低下した。また、98%の児童が「この勉強はわかる」と答えている。

２．今後の課題

（１）　取組の成果をできるだけ客観的に評価する手だてとデータの蓄積

（２）　既習事項が未定着な児童への補習等、児童のニーズにあった教材の開発や指導方法の研究。

（３）　学習環境（教室・コンピュータ・ネットワーク等）の整備

（４）　児童の情意面の把握と意欲の喚起

（５）　全ての教科等の基盤となる国語力の向上を目指した指導法と教材開発。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　教研式学力検査（ＣＲＴ）の実施

実施目的：客観的な児童の学力の定着状況の把握と今後の指導の資料とする。

実施時期：１月下旬（１月２９日・３０日）

実施内容：１・２年生（国語、算数）　３～６年（国語・算数・理科・社会）

教科毎の結果を、観点別に全国・全道・管内等の他地域や前年度までの結果と比較し、指導の資料としている。

○　単元テストの実施

各単元の前と学習後に、ほぼ同難易度の評価問題を行い、学習の成果や課題を考察する。

○　質問紙による意識調査

児童や保護者の意識調査を行い結果を分析し、研究推進の資料とする。また、児童は、自己評価及び授業評価を学習の節目で行い、授業改善に生かす。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　平成１６年　２月１３日（金）習熟度別指導フォーラム(釧路日進小)発表

○　平成１６年１０月２６日（火）教育実践発表会　(兼管内進路指導研小学校)

○　学校ホームページ　　３月公開予定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□6学級以下　☑7～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科）　☑国語　□社会　☑算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　☑その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無